

<書評と紹介>総和町史編さん委員会編 『総和町史 資料編 原始・古代・中世』

大村, 進

(出版者 / Publisher)

法政大学史学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政史学 / 法政史学

(巻 / Volume)

59

(開始ページ / Start Page)

65

(終了ページ / End Page)

66

(発行年 / Year)

2003-03-24

〈書評と紹介〉

総和町史編さん委員会編

『総和町史 資料編 原始・古代・中世』

大村 進

このたび北関東古代・中世史研究に注目すべき自治体史資料編が刊行された。自治体史が歴史研究と歴史資料の保存と活用に必要な貢献を果たしてきたことは申すまでもない。

ここで紹介する平成十四年五月に刊行された『総和町史 資料編 原始・古代・中世』もその一つである。本書は、平成五年から開始された総和町史編さん事業の第一冊として刊行されたものである。法政大学名誉教授村上直氏を編集委員長に四つの専門部会が組織され、鋭意、資料収集・研究調査を経て、このたび原始・古代・中世部会（部会長法政大学教授伊藤玄三氏）の担当によって公刊された。

茨城県猿島郡総和町は、古くは下総国猿島郡に属したが、現在の町域は茨城県に属し、この地域の複雑な歴史的経緯を反映している。現在では、茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉の五県が境を接する地域である。利根川中流域左岸に位置する本町は、古くから大小河川が集流分岐する内陸水運上の要地として、北関東地域の核となっていた。加えて北関東戦国史の中心地であった古河や関

宿と近接地であり、かつ古河公方の重臣の築田氏の館下とあれば、その重要性は申すまでもない。

本書は、こうした地理的・歴史的条件を踏まえて編集されたものであるが、その構成は「第一編 考古資料」、「第二編 古代・中世資料」から成っている。

第一編では総和町における埋蔵文化財調査のあゆみを概述し、これまでの埋蔵文化財包蔵地の基本調査や、文化財保護活動と埋蔵文化財の発掘調査・分布調査について触れ、その古環境と変質の考察も通して、総和町の地理的位置と概要、地形と地質を明らかにし、遺跡・遺物を考察するための基礎的条件を提示している。次に具体的に町域の遺跡・遺物の紹介のために、旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安の各期の遺跡（一四一ヶ所）・遺物について、各遺跡毎に図版を提示し、解説を加え、町民の理解を深めるものとなっている。

第二編 古代・中世資料は、文献史料を中心として編集されている。巻頭に対象年代（律令国家の完成した八世紀から、徳川家康の関東入部まで）の町域関係史料についての解説も掲げ、当該時代の史料と歴史的動向について説明している。鎌倉期では、秀郷流藤原氏の在地領主、下河辺庄と下河辺氏・幸嶋氏、領主北条氏一族金沢氏の所領支配を、南北朝・室町期については南北朝内乱を克服した鎌倉公方支配下の下河辺庄の動向、それに戦国期にかけて古河公方を支え、北条氏と交渉した町域の領主築田氏と関宿城関係史料も収録している。この築田氏関係文書を網羅・解説したのが、後述のように本書の特色の一つとなっている。第二編

の構成は、第一章 古代文献史料、第二章 中世文献史料は(1) 町内所在史料(家分け史料)、(2) 町外所在史料(築田氏・総和町・関宿町関係編年史料と町外の寺院関係史料)、(3) 記録・戦記、(4) 家譜・系図、(5) 地誌の五つから成っている。第三編は仏教美術・金石文・遺物史料からなり、但し、既刊の板碑は除外されている。

次に気付いた二、三の点について述べてみたい。第一は、各史料もしくは関連史料群に付された詳細な解説についてである。その点では今までに筆者が管見し得た史料編中では、量的にも質的にも優れていると感じた。史料の成立や背景・特色についてはもとより、随所に関連の先行研究を紹介し、読者に考えさせる編集となっている。反面、これが難解な史料を親しみ易くする一助ともなっている。

第二は、町史の特徴として町ゆかりの築田氏と関宿関係の史料を詳細に取り上げた点である。築田氏は、戦国期北関東の台風の目となった古河公方の重臣として多面的活躍をした武将である。従って築田氏と関宿城の動向を考究することは、関東戦国史解明の鍵となる。この点で本書が戦国史研究に裨益するところ大なるものがあるといえよう。

第三は、幾つかの自治体史編さんに携わった体験からの感想であるが、編さん事業では多額の予算と関係者の努力により大量の貴重な資料を蒐集するが、一旦事業が終了すると編さん組織は解散し、資料に対する情熱も薄れて、当初計画化された資料の住民還元が等閑視されがちである。総和町史の編さん大綱では「これ

からの町史にかんがみ、資料の電子媒体化を進め、尚一層の整理・保存及び活用に努める」とあるが、このことは編さん事業推進中にも絶えず意識され、住民活用を前提とした整理システムを日常編さん業務の中で実行されるのが望ましい。資料は住民共通の財産であり、歴史編さんは永続事業であるから……。

最後に老婆心ながら一言。第二編巻頭解説の三二二頁上段二二行目「晴氏は天文二十一年(一五五二)の河越合戦で」は、天文十五年(一五四六)とすべきものであろう。

大部なので、十分意の届かなかったところかと推測するが、ご苦労を多とし、本書を大方に推挙する次第である。

(B5判 七七四頁 総和町刊)

問合わせ先・総和町教育委員会生涯学習課 町史編さん係